

「有権者まで後1年」

都城西高校 2年 長曾我部 春蘭

「有権者まで後1年。」

私はこの言葉を聞いて、ゾッとしました。なぜなら、私が思う議員さんたちのイメージは日頃からニュースで多く取り上げられている議会での居眠りや消費税の増税、お金に関する疑惑等の行動により私の中で良いイメージはありません。そもそも選挙に関してしっかりとした知識もありません。そんな中で、この現代では、若い世代の意見を反映させたいからと言って選挙権を20歳から18歳に引き下げられましたが、私の父は20歳になった当初選挙に興味がなく、選挙に行かなかったそうです。選挙に行き始めたのは母と結婚してからだそうです。

このように、父の時代でも興味がないなどの理由で選挙に行かなかった人は少なくないはずです。だとしたら、選挙権を引き下げても今も昔も選挙に行く人は現状通り変わらず、むしろ減少傾向にあるのではないかと思います。減少傾向にあるということは、政治に対して興味を示す若者が減っており、それにより若い世代の意見を取り入れることが困難となっているということではないでしょうか。

減少する理由の一つとして、選挙のことをよく理解していない若者が選挙に投票しても、良い結果は生まれないという考えがあることです。私が疑問に思うのは、議員さんが考える若い世代の意見とはどういうものなのかということです。その点をお互いに理解し合うことができなければ、より良い選挙を実現できるのではないのでしょうか。だからこそ、議員さんたちは公約を演説し、私達国民がそれを応援して票を入れたとしても「ちゃんとその公約のために動いてくれているのか。」「その公約にかなった行動をしてくれるのか。」どの世代も不安になっているのではないのでしょうか。

実際、議員さんの仕事の取り組みや選挙の仕組みのことをなにも知らない状態で、「選

拳に行こう!」と言われても、なにもわからない状態で取り組みに参加したところで無駄になってしまうだけだと感じます。選挙カーの上で笑顔で手を振りながら「〇〇をよろしくお願いします。」という光景をよく目にします。愛想よく挨拶をしているだけでその人の何がわかるのでしょうか。名前ですか。顔ですか。いいえ、違います。私達が最も知りたいのは、名前でも顔でもありません。その人が当選して何を行いたいのか、そして何を私達のために成し遂げてくれるかです。『政策』です。

議員さんに立候補する人の政策も知らずに、投票してもこれこそ意味のない投票であり、若い世代の意見どころか全世代の意見をも取り入れていないと思います。

私は、生徒会選挙に立候補し生徒会長という役を成し遂げることができました。私が掲げた公約は『各委員会の仕事の見直し』でした。この公約を掲げ、各委員会の情報伝達や成果の報告を全校生徒に随時知らせ学校全体が情報の共有をすることができたと思っています。それを、間近で実感できたこと、人と人の協力がなければできなかったことなどを知る機会になりました。また、色々な行事に新しいものを取り入れて、今までにない行事へと変えることができたと自負しています。

しかし、学校の生徒の皆さんは私の意見とは別の評価をしている方もたくさんいます。学校という小さな社会の中でもそう思っている人はたくさんいるのに、全国民となるとその差は、歴然だと思っています。

だからこそ、選挙に立候補する方は公約以上に説明・責任が重要になってくるのではないかと私は思います。皆さんが十分に理解できるように良き選挙を行うために。私はそう考えます。私が選挙に行くときは、立候補者一人ひとりの公約や政策を見て、この人なら未来の日本を任せられる人に投票したいです。